



栃木県立足利南高等学校 平成 25 年度 総合学科通信 第 2 号

No.36

(2013/12/20発行)

一日体験学習

教頭 渡辺 敏男

平成 25 年 8 月 1 日、中学生・保護者に対して、本校の教育課程・教育内容・進路状況・特色等を説明し、本校への理解を深め、進路選択に資することを目的とした、一日体験学習を開催しました。

当日は足利・佐野を中心とした 31 校から、中学生 425 名、保護者 203 名、教員 1 名の計 629 名の参加がありました。

今年度は第一体育館の耐震工事のため、第二体育館で午前・午後の実施となり、例年行っていた体験授業は行わず、全体会での説明・発表会となりました。



内容は総合学科紹介ビデオ、教育課程や進路状況説明、ホークスバリー高校派遣生徒発表やライフプラン発表、卒業生による課題研究発表等を行いました。その後、部活動や校舎等を自由に見学して終了となりました。

アンケートを実施したところ、学校・学科の教育上の特色や内容が（よく・だいたい）理解できた：99%、一日体験が大変参考になった：76%という評価をいただきました。



また、「総合学科のことがあまりよくわからなかったが、説明や発表を聞いてよくわかった」、「生徒会長の言葉に勇気づけられ、勉強しようと思った」、「課題研究の発表が勉強になった」、「学校内もきれいで雰囲気がとても良かった」等の感想がありました。

体験的な活動はありませんでしたが、発表者、係生徒がそれぞれの立場で本校を代表して立派に行動した結果、中学生に好印象を与えたようです。



インドネシア学校との交流会

交流会担当者 野口 徳雄

10月23日に第32回東京インドネシア学校交流会が文化部発表会と共に行われました。インドネシア学校はインドネシア学校共和国を代表する学校の1つです。午前に交流体験授業、午後は発表会となりました。発表会ではインドネシアの素晴らしい伝統的な舞踊や武術が披露されました。

本校からは演劇Ⅱの受講者による日本舞踊や各文化部のステージ発表、展示が行われました。またインドネシア学校のバンド発表「恋するフォーチュンクッキー」では会場全体で盛り上がることができました。とても印象的だったので、この曲の歌声を1週間ほど廊下でもよく耳にしました。

来年は本校の生徒会が東京で交流を深めてきます。この当然のようにゆるやかに続く交流の意義をこれからも大切にしていきます。



インドネシア学校の発表内容紹介

Tari Indang (タリインダン)

インダン ダンス

インダングダンスは、西スマトラのパダン地方のダンスです。元々は、イスラム教の教えを伝承する為のものだと言われていますが、その後、若者に人気のあるフォークダンスとして発達しました。友好や行儀、団結や一体感を表しています。

Pencak Silat (ブンチャックシラット)

ブンチャックシラットは、千年以上の歴史がある伝統武術です。武術の基本思想は、礼節や他人への思いやりを身につけ、精神修行として瞑想や集中力を養い、心豊かに生きることを理想にしています。武術やスポーツとしての戦いだけでなく、扇など持って舞踊として演じることもあります。

交流会を通して感じたこと

生徒会役員 新演 朱音

10月23日、本校では文化部発表会が行われ、この同じ日にインドネシア学校との交流会も行われました。文化部発表会では、インドネシア共和国学校の生徒による武術などのパフォーマンスやバンド演奏が行われました。武術のオアフパフォーマンスは、日本で言う空手に近いものを披露してくれました。とても良かったです。

後半は、本校の生徒のパフォーマンスでした。吹奏楽部の演奏やフォーク部による演奏、演劇部による発表などがありました。フォーク部の演奏では、両校の生徒が盛り上がるできました。バンド演奏では、インドネシア学校の生徒さんがAKBの曲を演奏してくれました。サビの部分では、本校の生徒も一緒にダンスを踊り、楽しく交流することができました。ステージ発表の他にも、写真部や天文気象部による展示もありました。

インドネシア学校の生徒さんは、とてものがりが良く、常に盛り上げてくれました。この交流会では、交流を深めると共に、文化部の様々な活動を知ることができました。今後の文化部の更なる活躍を期待します。



ハーフマラソン大会

保健体育科 笠原 唯

11月8日(金)、第14回足利南高等学校ハーフマラソン大会が開催されました。今年度は天候にも恵まれ、無事に実施することができました。

今年は、上位入賞は運動部の活躍が目立ち、昨年度同様大会運営もスムーズにいき、制限時間よりも1時間も早く生徒全員がフィニッシュすることができました。

途中、体調不良で棄権をする生徒1名出てしまいましたが、大事には至らず524名の生徒が無事に完走しました。一人一人の生徒たちがそれぞれに充実感や達成感を味わったことと思います。

最後になりますが、PTA会長をはじめ今年も多くの保護者の方々のお手伝いをいただき、大きな事故もなく無事大会を成功させていただきましたことを心からお礼申しあげます。

また、大会欠課は以下の通りとなっています。



【個人成績】

○男子の部○				○女子の部○			
完走者数：171名				完走者数：353名			
順位	クラス	氏名	記録	順位	クラス	氏名	記録
1	2-5	小林 寛史	1:21:40	1	2-3	原口 莉沙	1:36:42
2	2-5	植木 淳太	1:23:29	2	3-4	須永 恵里奈	1:48:07
3	2-4	岡田 一馬	1:23:57	3	3-2	小林 蛍	1:50:03
4	2-4	中村 大樹	1:27:35	4	1-1	佐々木 莉奈	1:51:05
5	2-5	山口 亘	1:28:50	5	3-3	小暮 優希	1:52:20
6	2-4	松原 友愛	1:29:00	6	3-4	相馬 香奈恵	1:56:02
7	2-3	宮崎 凌	1:29:29	7	2-2	島田 佳代子	1:56:20
8	3-5	山崎 宏樹	1:31:47	8	3-3	小林 亜美	1:58:38
9	2-3	加藤 優	1:35:29	9	3-2	大川 椋	1:59:28
10	2-2	斉藤 翔也	1:36:29	10	2-3	柳澤 フィフィ	2:02:10

【総合成績】

総合順位	クラス	クラス平均タイム	出走人数	525名	※途中棄権も含む
1	3-5	3:00:44	出生率	93.9%	
2	1-4	3:01:35	平均タイム		
3	1-3	3:02:39	男子	2:37:35	
4	3-2	3:04:11	女子	3:29:20	
5	1-5	3:07:28	男女	3:12:20	

修学旅行

2学年主任 厚木 範之

総合学科13期生の修学旅行は10月2日～5日の3泊4日で実施される予定でしたが、台風の影響で1日延泊を余儀なくされ結局4泊5日で実施されました。出発前日までは台風22号の影響で飛行機が飛ばないのではないか、また現地では台風23号が接近しつつある中で予定通り行程が送れるのか危惧されましたが、旅行会社の機転もあって生徒たちは楽しく過ごすことができた5日間となったと思います。

1日目は、平和学習として平和祈念公園を訪れました。公園内を見学した後、平和祈念堂にて吉嶺全一さんの講話を聴きました。その後各組の生徒たちが5月頃から折りはじめてきた千羽鶴を捧げ改めて平和への誓いを確認しました。

2日目の午前中は当初ひめゆり資料館とガマ入壕を予定していましたが、台風接近により波が荒くなってしまう前に、生徒たちが楽しみにしていた3日目のマリン体験を急遽実施することになりました。生徒たちは限られた時間の中で大いに沖縄の海を楽しんでいました。昼食後は美ら海水族館へ向かい、時間的にジンベイザメの餌付けやいかショーも楽しむことができました。

3日目は全クラス時間差を設けて糸数壕への入壕とひめゆりの塔、資料館の見学を行いました。当初は那覇の国際通り別荘散策時に各自夕食をとってホテルに戻ることになっていたのですが、台風接近で風も強くなり始めたため安全を第一にし、早めの散策と早めのホテルへの帰着、そしてホテルでの夕食となりました。生徒たちが夕食を食べ終わろうとしていた頃添乗員の方から翌日の飛行機が終日欠航になったことを聞きました。生徒たちへその旨を伝え保護者への連絡を取るよう指示し、4日目を迎えました。飛行機は欠航でも首里城公園が開園していれば見学に出かける予定でしたが、やはり台風接近のため閉園となってしまう、結局その日は一日ホテル待機ということになりました。5日目帰りの飛行機も分便ということになり、4組と1・2・3・5組2グループに分かれての帰着となりました。

まさに台風で始まり台風で終わった修学旅行でしたが、生徒たちのアンケートから、平和についていろいろ考えさせられた。命の大切さや平和という言葉の重みを感じることができた。延泊ということもあったがそれもまたいい思い出となり、仲良くなった。という声も多々ありました。将来、生徒たちがこの5日間で感じた平和のありがたさ、戦争の悲惨さをもとに平和社会をきっと築いていけると思います。そして4泊5日の修学旅行での経験を今後の高校生活に役立てていてもらいたいと思います。



2学年代表 吉澤 柚季

この修学旅行で沖縄に行った5日間に、沖縄の海の美しさ、独特の文化、人々の心の温かさ、そして数十年前の悲しみを歌った沖縄民謡など様々なものを見たり聞いたりして私は命の大切さや平和という言葉に込められた人々の気持ちの重みを知ることができたような気がします。

特に、糸数壕というガマに入ったり、ひめゆりの塔で見たり聞いたりしたことが大きく心に残っています。私はガマに入る前、ただ暗くて狭い洞窟の中を歩くだけだと思っていました。しかし、実際に入ってみると広く、そして空気が冷たくひんやりとしていて重い気がしました。遺留品などが残っていたり、ガイドさんの話を聞いていたりするとまるで目の前で戦時の様子や人々のうめき声や血の臭いなどがしてくるようになってしまい、気分が悪くなってしまいました。それでも知っておかなければならない事なのだと思います、行って良かったなと思うことができました。そしてひめゆりの塔では、沖縄戦の時に看護師として働いていた人たちの話をもとに書かれた資料やその時に亡くなった人たちの遺影があり、その下には名前や性格、死因などが詳しく書いてあるものが数多く展示してありました。亡くなった時の年齢が私たちと同じくらいだと聞き、何とも言えない感情や衝撃が私の中に走りました。もし修学旅行先が沖縄でなかったらこのような感情は私の中に生まれることはなかったのではないかと思います。そしてただ楽しむためではなく意味のある修学旅行になってよかったと心から思うことができました。これからも沖縄修学旅行を通して感じたものを忘れずに生きていきたいと思っています。



発行：栃木県立足利南高等学校
TEL：0284-72-3119(事務室)
TEL：0284-72-3118(職員室)

教務部広報係
FAX：0284-73-2772